思斉のしせい

大阪府立思斉支援学校　支援室だより
第５９号　　令和４年９月１３日

今回の思斉のしせいでは、「子どもの困った行動」について取り上げてみようと思います。担当は高等部相原です。指導者という立場でいると、日々「困ったなぁ」と思うこと、対応に悩むことがある方が多いと思います。大人が「困ったなぁ」と思う子どもの行動は、実は“本人が困っている状況を表した行動”であることも多いです。

●「なぜか？」を考え、理由を知り、理由に合った支援を

生徒・児童によって、その行動を起こす理由は様々だと思います。*「〇〇ができない」と捉えるのではなく、「今は〇〇をするという行動が起きていない状況」と考えてみます。*

例えば授業中うろうろと立ち歩いてしまう理由はなんでしょうか。

まず、*周りの状況や周りの人たちがどのように関わり、その子が反応しているかを考える。*そして、*問題になっている「行動そのもの」、そしてその行動の「前」と「後」の３つに分けて考える*と本人の行動の理由が見えてきます。そして、その見えてきた行動の理由に合った支援を考え実践することで、お互いの「困った」を解決する第一歩に繋がると考えられます。

前	行動そのもの	後
指示を理解することができない	その行動をすることができない	やる気になっていない
座って！っていつまで？見通しがたたない	姿勢が保てず長時間座ることはしんどい	授業を聞いていてもよくわからない
まずは短い時間から…タイムタイマーを使って目で見てわかるようにしてみよう。	椅子や机の高さが合っているか確認。姿勢を保ちやすくするために椅子を工夫してみよう。	本人に合った課題を本人の好きな話題を交えながら授業を進めてみよう。

話は少し変わりますが…わたしが以前療育園に勤めていた時に経験した話をしたいと思います。

走りたい！跳びたい！思いが強く、なかなか椅子に座ることができなかったＡくん。椅子に座る場面では保育室の後ろを走ったり跳んだりして過ごすことがほとんどでした。どうにか自分から座ってくれる方法はないか？と色々試してみると、Ａくんの好きな“早い手遊び”を集い前にすると変化が見られました。目も耳もこちらに向けてくれたので「Ａくん座って！もう１回しよう！」と声をかけると、自分から座って手遊びを楽しんでいました。それから、わたしが集いを始めようと前に立つと、自分から椅子に座り「早い（手遊び）！」と要求する姿に繋がりました。

子どもが“自分から”〇〇しようと思えるための支援が大切ですよね。今回は好きなことが大人に期待する姿に繋がり、自分から動くきっかけになったお話を紹介しました。（※一部内容を変えています。）

参考文献：大久保賢一『３ステップで行動問題を解決するハンドブック』Gakken,2018.

（引用した箇所につきましては、字体を斜体にしています。）